

## 地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム報告



### “わ”をもって未来の地域医療にバトンを渡す 集おう！語ろう！！語り合おう！！！！

令和6年12月14日（土）に「地域医療を守り育てる住民活動全国シンポジウム2024」を東京千代田区の東京グリーンパレスにて開催いたしました。5年ぶりに東京での対面開催となった今回は、全国各地から42名の方にご参加いただき、一日を通してグループワークを行っていただきました。

#### 1. 開会挨拶・主催者挨拶

世話人を代表し、小谷和彦氏（自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門教授）から開会の挨拶をいただきました。続いて、主催者を代表し、佐藤清美事務局長が挨拶をいたしました。



#### 2. 趣旨説明

趣旨説明では、藤本幸男氏（青森県立保健大学看護学科特任教授）に本シンポジウムの経緯、目的の他、「かかりつけ医」「医師の働き方改革」「人生の終い方」「救急車を呼ぶということ」「地域医療構想」の5テーマをグループワークの題材に選んだ理由についてご説明いただきました。



#### 3. グループワーク

事前アンケートにて5つのテーマから興味のあるテーマを選んでいただき、その結果をもとに7グループ（1グループ6～7名）に分かれ、あらかじめ指名させていただいたファシリテーターがまとめ役となり、各グループがそれぞれのテーマでグループワークを行いました。

最初に久保田健太郎氏（千葉市職員）より、グループワークの進め方について説明がありまし

た。午前中は分かれたグループにてテーマを選んだ理由を発表後、「メンバーの話から気づいたこと」「地域に帰ってやってみたいこと」などを話し合いながら、各自ワークシートに記入していただきました。ファシリテーターはメンバーの意見をまとめ、模造紙に記入していきました。参加者は昼休憩中にそれぞれのグループの模造紙の内容を確認し、午後のワークでは、ファシリテーター以外の参加者は午前中のグループとは違うテーマ(グループ)に移動し、話し合いを行いました。午後のグループ移動は2回行い、一日を通して、3グループでワークを行っていただきました。



#### 4. グループワーク発表

メンバー交換を行いながらそれぞれのテーマについてまとめた内容をファシリテーターの方に順番に発表していただきました。Aグループは「かかりつけ医」、Bグループは「医師の働き方改革」、CグループとDグループは「人生の終い方」、Eグループは「救急車を呼ぶということ」、FグループとGグループは「地域医療構想」についてでした。どのグループにおいても、「どんな課題があるか」「今後どうすれば良いか」等がわかりやすくまとめられていました。

#### 5. 閉会挨拶

福田政憲氏(宮崎県北の地域医療を守る会事務局長)から閉会の挨拶をいただいた後、参加者全員で写真撮影(冒頭の写真)を行い終了となりました。

総合司会は小松憲一氏(茨城県西部メディカルセンター内科部長)と藤原真治氏(美馬市国民健康保険木屋平診療所長)に務めていただきました。

